

1 題材名 「ざいりょうから ひらめき！」

2 題材について

本題材は、新学習指導要領図画工作科内容「A表現」(1)イ、(2)イ及び「B鑑賞」を受け、材料を使って絵で表す活動を通して、感覚を働かせて材料と関わりながら、形や色、質感等を視点に見方や感じ方を広げ、楽しく発想したり構想したりしながら、表し方を工夫して創造的に表すことができるようにする。

本題材は、材料の形や色、質感等から受け取ることのできる「感じ」(触った感触や見える印象等)を生かし、何かに見立てたり、思い付いたことや表したい思いやイメージをもとに、組み合わせたり、加工・加筆したりしながら絵として表していく。そのため、様々な感覚を働かせて材料とかわり、他者との交流の場で、色や形、質感等から分かる特徴等について考えたりしながら、見方や考え方、感じ方を広げ、発想を豊かに膨らませていくことが重要である。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

様々な感覚を働かせて材料と関わりながら、材料の形や色、質感等を視点に、対話や交流などから発想を豊かに膨らませることができる。また、思い付いたことや表したい思いをもとに、材料を組み合わせたり、加筆したりしながら表し方を工夫して絵に表していく。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア 様々な材料を使って絵に表すことを楽しもうとしている。	ア 材料の形や色、質感等から見立てたり、思い付いたりしている。 イ 材料のから表したいことを見付け、形や色、質感等を生かすことを考えている。	ア 材料を生かし、組み合わせたり、加工したり、加筆しながら、表し方を工夫している。	ア 対話や交流、他者の作品などから、材料の使い方や表し方の工夫、面白さを感じ取っている。

4 本単元において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」

表したいことに合わせて、造形的な要素の特徴や美しさを感じ創造的に表現していこうとする姿

<p>材料とかわりながら、形や色、質感等の面白さを味わう場面</p> <p>◎材料の形や色、質感等から何かに見立てたり、特徴を捉えたりしたりしながら形や色から受ける感じ(触った感触や見える印象等)に着目し、材料から想像する面白さを味わい、豊かに想像を膨らませる。</p>	<p>材料の形や色、質感等から受ける「感じ」(触った感触や見える印象等)について、全体で交流する場面</p> <p>◎他者と共に、材料の形や色、質感等から受ける「感じ」(触った感触や見える印象等)を交流し、色や形、質感の生かし方を考える。</p>	<p>材料の形や色、質感等から受ける「感じ」(触った感触や見える印象等)を踏まえながら、表したい思いに合った表現に作品を近づけていく場面</p> <p>◎自分たちの表したい思いに作品を近づけていくために、材料を組み合わせたり、加筆したりしながら表現していく。</p>
---	---	---

5 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり

2学年の学年経営年間プログラムに「異学年とのかかわりを通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしながら、よいと思うことを進んで行うとともに、温かい心で接し、交流していく活動」がある。その核となる活動として、「他者を楽しませるためにできることを考え、伝えたいことや伝え方を選んだりする力、よいと思うことを進んで行う態度を育む」ことを主な目的として、生活科単元「子ども広場」の学習が設定されている。

生活科の活動を中心とした年間プログラムとのかかわりとして、本題材では、鑑賞活動や他者との交流、対話から、造形的な視野や見方、感じ方を広げようとしたり、相手意識や目的意識をもってより良い方法で伝えたり表現していこうとする態度を育みたい。

学習活動

一貫した主体的な学びをつなぐ手立て①

1～2 様々な感覚を働かせて、材料とかかわりながら、材料の形や色、質感等から、見立てたり、想像を膨らませたりして、想像したことを交流し、造形的な視野を広げる。**発ア・鑑ア**

【個の確立】さまざまな材料の形や色、質感等を視点に持ち、触った感触や見える印象などの特徴を捉えながら、何かに見立てたり、想像を膨らませながら見方や感じ方を広げたりしようとする。

【見方・考え方を働かせる】

・材料の色や形、質感などから受ける感じを感じ取る方法を交流したり、何かに見立てたりして想像を広げたものを全体で交流できるようにする。

【見方・考え方を高める】

・全体やグループの交流を行う中で、子供が材料や形、色、質感から感じたことを取り上げ、色や形、質感等の視点で整理しながら、同じ材料でも想像を膨らませると様々な見立てや捉え方ができるとに気付けるようにする。

【個の内面化】黒板を使って、全体で学習を振り返る場面において、形や色、質感を視点に振り返りを行い、「どんな材料をつかって、どんな絵をつくりたい？」と問うことで、次時の活動にどのように生かし、自己の表現につなげていくことができそうかを整理し考えられるようにする①

3 表したい思いのもとに、材料の色や形、質感等の生かし方を考え、表し方を試したり、組み合わせたりしながら絵に表していく。

発イ・鑑ア (本時)

【個の確立】教師が制作した「制作途中の作例 (作品の一部が欠けた状態の作品)」を提示することによって、形や色、質感等、材料の生かし方について考えながら制作する必要性に気付かせるとともに、題材に興味・関心を持ちながら主体的に学びに向かおうとする姿を引き出す。

【見方・考え方を働かせる】

・前時までの学びを振り返り、材料の色や形、質感等と表したい思いの関係性に目を向けながら、考えることができるようにする。

【見方・考え方を高める】

・教師が作成した「制作途中の作例 (作品の一部が欠けた状態の作品)」をもとに、材料によって「感じ」が変化することや、表したい思いに近づけるためにどのような材料が良いかを考え、その必要性に気付けるようにする。
・「制作途中の作例 (作品の一部が欠けた状態の作品)」をもとに考え、他者と感じ方や捉え方を交流し共有することにより造形的な視野を広げられるようにする。

【個の内面化】本時で学んだことを全体で整理し、学びを共有・蓄積するとともに、本時で学んだことや気付いたことを次の活動に生かすためにどうしたらよいか問うことで、次時の学習に向け、主体的に学びをつないでいく。①

4～5 表したい思いをもとに、成果や課題を明確にししながら、思いにあった表現を求めていく。**関ア・技ア**

【個の確立】教師が制作した作例 (表したい思いがうまく伝わらない課題を含む作例) を提示し、全体で交流しながら造形的な視野を広げ、思い付いたことや表したい思いをもとに、表し方を試したり、組み合わせたりしながら、最後まで主体的に活動しようとする姿を引き出す。

【見方・考え方を働かせる】

・作例 (表したい思いがうまく伝わらない課題を含む作例) を示し、これまで学んだことも含め、作品を改善するための視点や必要感をもった上で、相互に作品鑑賞することにより、自分の作品の成果や改善点を見つかけられるようにする。

【見方・考え方を高める】

・見つけた成果や改善点をもとに、よりよい作品になるように、表し方を試したり、組み合わせを変えてみたりなど、試行や調整を繰り返し、思いに合った表現を最後まで求めていけるようにする。

【個の内面化】表したい思いを表現するため、自分の作品の成果や課題を明確にするとともに、次時の活動に向けて具体的な見通しがもてるようにする。①

6 作品の仕上げと振り返り**鑑ア**

【個の確立】表したい思いをもとに作品を仕上げるとともに、制作過程や本題材で学んだことを以後の学びにつなげていこうとする姿を引き出す。

【見方・考え方を働かせる】

・自分の作品と向き合い、表したい思いを表現することが出来たか、伝えたいことが表現できているか等の問いを投げかけたり、他者と交流することによって、仕上げに何が出来るか考えられるようにする。

【見方・考え方を高める】

・全体の交流の中で、制作過程の思考の流れや試行・調整などの学習プロセスを振り返ることによって、「学んだこと」と「表したこと」の関係性に気付けるようにする。
・これまでの学習を振り返り、形と色、質感等について整理する中で、作品をよりよくするための他者との対話や交流、試行や振り返りの必要性について考えられるようにする。

【個の内面化】学習を振り返る中で、色や形、質感等の働きを中心に表したい思いと表し方の関係性や、作品をよりよくするために必要な活動(対話や交流、試行や振り返り等)に気付かせながら、学びの価値に着目して振り返りができるようにする①

7 本時について（3 / 6 時間目）

(1) 本時の目標

材料の色や形、質感の生かし方を考え、それらをもとに制作する必要性に気付くとともに、交流や対話などから造形的な視野を広げる。また、次時に向けて具体的な見通しをもつことができる。

(2) 一貫した主体的な学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

「個の確立」では、前時に子供たちが考えた「表し方」を活用し、教師が作成した「制作途中の作例（作品の一部が欠けた状態の作品）」を提示し、表したい思いと「表し方」の関係性に気付かせながら、「表し方」を選択することや試行錯誤することの必要性に気づかせるとともに、題材に興味・関心を持ちながら主体的に学びに向かおうとする姿を引き出したい。

また、「個の内面化」では、全体で学びを振り返り、学びを整理し蓄積するとともに、本時で学んだことや気付いたことを次の活動に生かすためにどうしたらよいか問うことで、次時の学習に向け、主体的に学びをつないでいけるようにしたい。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は、色々な材料を研究して変身させたよ。 ・材料には様々な色や形、感じ(質感)があっっておもしろい。 ・同じ材料でもたくさんのアイデアがあったね。 ・私は～を使って～をつくりたい。 ・～をつくりたいけどつくれるかな ・つくりたいものは決まったけど、まわりはまだ決めてないよ。 ・このままだとなんだか寂しいな。 	<p>【個の確立】前時までの学びを生かしながら、教師が制作した「制作途中の作例」を提示することによって、形や色、質感等について考えながら制作する必要性に気付かせるとともに、題材に興味・関心を持ちながら主体的に学びに向かおうとする姿を引き出す。</p> <p>【見方・考え方を働かせる】</p> <ul style="list-style-type: none"> □前回は様々な材料を研究して、材料をいろんなものに変身させましたね。つくりたいものも考えました。 ・材料を変身させる中でどんなことがわかりましたか。 ・どんなものをつくりたいと思っていますか。 ・まだ足りないところはないですか。 	<p>【発言】</p>
<p>2 「制作途中の作例」を提示し、未完成の部分を全体で考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あ、私の考えた「あらかわし方」が使われている。 ・私だったらあの材料を使うよ。 ・～をつかったらどんな感じになるかな。 ・材料でこんなに作品の全体のイメージがかわるんだね。 ・つくりたい(あらかわしたい)ものにあわせて材料を選ぶ必要があるね。 ・材料を選ぶとき、材料の色や形や感じも考えるといいね。 ・いろいろ試してみよう！おもしろいものがひらめくかもしれない。 ・あの材料を使って～をつくってみたいな。 	<p>□この作品を見てください。みなさんが前回、考えてくれた「あらかわし方」を使って、先生がつくった作品です。だけど、この部分どうしようか迷っています。みなさんならどうしますか？（隣同士で交流）</p> <p>(全体での交流後)</p> <p>【見方・考え方を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料が変わるとどんなことが変わるのでしょうか。 ○材料を選ぶときどんなことが大切だと思いますか。 	
<p>3 色々な材料を試してみる。 自分の表したいイメージに近づくように材料を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この材料がびったり！ ・材料によって感じが変わる！ ・この材料がいいと思ったけど、こっちの材料のほうがあってる。 ・色々試したけどやっぱりこの材料がいいな。 	<p>□自分の表したいイメージを大切に、材料を色々試してみましよう。 色々試してみて、「これだ」という材料が決まったら、「ひらめきファイル」の中に入れて下さい。</p>	<p>▲他者の作品を見に行ったり、対話をしたりするよう促す</p>
<p>4 学習を振り返り、学んだことを全体で整理し全体で共有した上で、個人の作品への見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の色や形、感じ(質感)やとくちょうを考えて、材料を選ぶことが必要だな。 ・この部分は決定だ。次の時間に貼れるぞ。 ・この部分はまだ考えたいな。次の時間に試してみよう。 	<p>【個の内面化】 本時で学んだことを全体で整理し、学びを共有・蓄積するとともに、本時で学んだことや気付いたことを次の活動に生かすためにどうしたらよいか問うことで、次時の学習にむけ、主体的に学びをつないでいけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次の時間も自分の作品を作っていきます。決定している部分とまだ考え中の部分を考えて下さい。 ○次の時間は何をする必要がありますか。 	<p>【発言・作品】</p>

